

# 金賞狙い 共に田植え

## 千種高校生、地元児童らと

宍粟市千種町の県立千種高校の1年生が28日、地元の小中学生たちと田植えをした。同高校は昨年、「全国農業高校お米甲子園」(米・食味鑑定土協会主催)に初エントリー。普通科の高校としては異例の、2位にあたる金賞を受賞した。今年も金賞をねらい、児童生徒たちと苗を植えていった。

千種高校では食育の一環で、1年生が休耕田を借りて米作りをしており、今年で5年目。田植えをした後は毎日水の管理を続け、減農薬の田に生える雑草を7、8月の炎天下で除草するなど手入れを重ねて秋の稲刈りを迎える。

そうした苦勞を重ね、去年は初挑戦でお米甲子園の金賞受賞を果たした。生徒

たちは「今年もまた金賞を」と意気込んでいる。

今回は約8町の田で、高



高校生と小中学生が力を合わせて田植えをした＝宍粟市千種町

校生38人と千種小学校3年生、千種中学校3年生の計約70人で田植え。高校生と小中学生がペアを組み、列になって苗を植えていった。秋にはまた一緒に稲刈りをして、収穫した米は生徒がどう利用するか考える。これまでは子ども食堂

に提供したり、市販した売り上げをユニセフに寄付したりと、社会貢献にも取り組んできた。

同高校の名田公子さん(15)は「初めての田植えで

泥が気持ち悪かったけど、農業の大変さがわかった。ひとつひとつの食べ物に込められた、作った人の思いを大切にしたい」と話していた。(伊藤周)

# 小中高生並んで田植え

宍粟・千種「きっとおいしい米に」

宍粟市千種町の千種高と千種中、千種小の児童・生徒計73人が28日、近くの水田で田植えに取り組んだ。



田植えに取り組む千種小、千種中、千種高の児童と生徒＝宍粟市千種町千草

同高では2017年から米作りに取り組み、こども園から小中高まで連携した一貫教育推進を図るため、今

年初めて小中学校と協力。参加者はぬかるむ足元に苦戦しながら、おいしい米が育つようお願いを込めて苗を

植えた。

同高1年生は毎年、近くの休耕田(約8㌥)を借りて米を栽培。昨年、高校生が栽培した米の出来栄を競う「全国農業高校お米甲子園」に出品し、全国79校の中から2位に当たる金賞に輝いた。今年も出品し、1位の最優秀賞を狙う。今回は同高1年生38人、同中3年生19人、同小3年

生16人が参加。小中学生は高校生から苗の植え方を教わりながら、コシヒカリを丁寧に植えていった。

千種小3年の池田旺志郎君(8)は「足が深く入って水が冷たかった」と笑顔。千種高1年の大久保未紅さん(15)は「みんなの気持ちがあこもった苗なら、きっとおいしい米ができる」と話した。  
(村上寛宏)